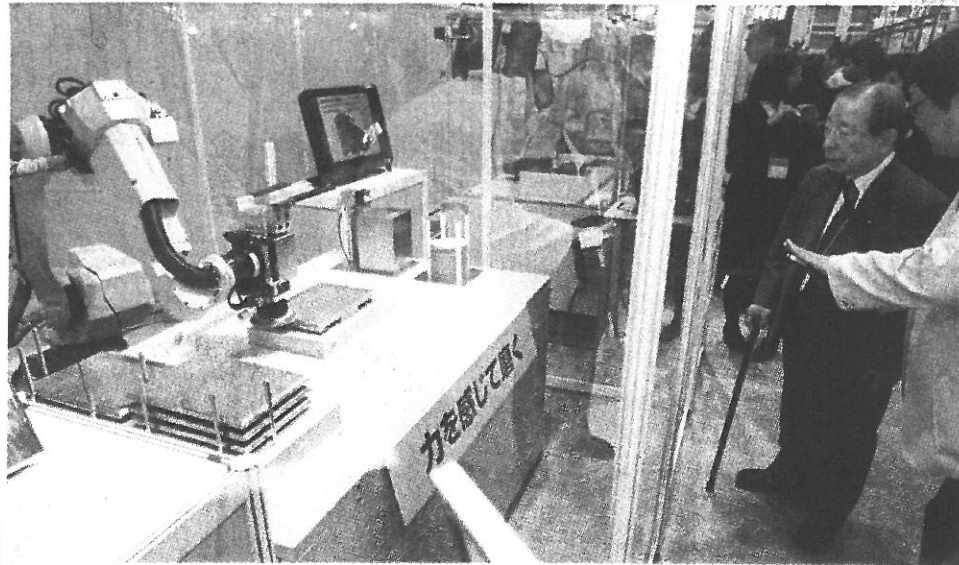




国際ロボット展開幕



稲葉清右衛門ファナック名誉会長も会場を視察した

世界最大規模 272社・団体出展

世界最大のロボット見本市「2011国際ロボット展」(日本ロボット工業会、日刊工業新聞社主催)が9日、東京・有明の東京ビッグサイトで開幕した。ロボット・関連機器メーカー、大学・研究機関など過去最大の国内外272社・団体が1085小間を出展した。製造分野をはじめ、市場の成長が期待されるサービス分野のロボットや要素技術などが集まった。(6、最終面に関連記事)

国際ロボット展は隔年開催で今回が19回目。開会式では日本ロボット工業会の稲葉善治会長(ファナック社長)が「最新の技術情報、製品を広く国内外に発信したい。次世代ロボット技術が新たな市場を顕在化させて業界が活性化することを期待している」とあいさつ。経済産業省製造産業局の上田隆之局長が「ロボットの技術はモノづくりの基盤であり、競争力の源泉。日本のモノづくりを将来も含めて大きく育て分野にするためにも、ぜひ力を尽くしていただきたい」と祝辞を述べた。電気通信大学の長井研究室の家庭用自律ロボット「DIGORO(だいがろー)」が登場し会場を沸かせた。会期は12日まで。10日は主要ロボットメーカーやユーザーの代表による「ロボットサミット2011」を開く。併せて「2011部品供給装置展」(12日まで)、「SAMPE JAPAN先端材料技術展2011」(11日まで)、「冬の節電対策展2011」(11日まで)が開催した。11、12日には「マイナビ転職モノづくりエンジニアセミナー」も開催する。